

わたしにつながっていなさい

ヨハネ 15 : 1 - 8



司祭 ヨハネ 井田 泉

2014年5月25日

復活節第6主日

奈良基督教会にて

「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。」

ヨハネ 15:1

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。」 15:5

この言葉は、わたしが小学生の頃から大切にしてきた言葉です。というのは、日曜学校でこの言葉を書いたお皿のような壁掛けをもらって、ずっと机の前にかけてあったからです。

「わたしはまことのぶどうの木」

本当の、ほんもののぶどうの木。それがわたしだと、イエスは言われます。ほんものの、本当のぶどうの木、と言われるのは、世間には偽りのぶどうの木というべきものがあるからに違いありません。

古代イスラエルの人々、聖書の民は、ぶどうの木にどんな思いを寄せてきたのか。その二つを聖書から紹介しましょう。

「人はそれぞれ自分のぶどうの木の下

いちじくの木の下に座り

脅かすものは何もないと

万軍の主の口が語られた。」 ミカ書 4:4

脅かされてきた人々の現実がこの背景にあります。

もう一つ。

「その日には、と万軍の主は言われる。

あなたたちは互いに呼びかけて

ぶどうといちじくの木陰に招き合う。」ゼカリヤ書 3:10

今はそうではないけれども「その日には」、ぶどうの木といちじくの木陰に、招き合って一緒に祈り、また楽しむ。お互いの信頼と信仰の交わりが何の心配もなしに実現する、その日が来る。

平和を得てこなかった古代イスラエルの人々が、切に求めてきたのが、平和なぶどうの木陰でした。

二つ目に、ぶどうの木は、そこからぶどうの実を食べ、ぶどう酒を造って飲む。ぶどうは、生活になくてはならないものです。

「ぶどう酒は人の心を喜ばせ、油は顔を輝かせ
パンは人の心を支える。」詩編 104:15

苦勞の多い人生において、ぶどうのもたらすものが喜びだったことが感じられます。ぶどうの木は、喜ばしく、生きがいのある生活の象徴です。

イエスは「わたしがほんとうのぶどうの木だ」と弟子たちに言われます。これは弟子たちと最後に囲まれた食卓での言葉です。

わたしがこれまで木陰となって、あなたがたを覆い、守ってきました。敵対者の憎しみ、非難、迫害からあなたがたを守ってきました。わたしのもとで、皆は信仰の交わりを楽しんで来た。

この最後のときに、わたしは極みまであなたがたを愛している。死んでもあなたがたを離さない。わたしがあなたがたにいのちを

与え、あなたがたのいのちを喜ばせる。わたしがあなたがたのため
のぶどうの木となる、とイエスは言われるのです。

弟子たちはよくわかっていなかったかもしれませんが。しかしす
でに彼らはイエスから受けてきた。イエスに守られてきた。イエ
スのもとで平安と満ち足りた思いを与えられてきたのです。

「わたしにつながっていなさい。」15:4

「つながっていなさい」と言うと、つながったり、離れたり自由
にできるかのような感じがするかもしれません。しかしこれはそ
の程度のことではありません。

元のギリシア語原典を直訳すれば

「わたしに中にいなさい。」

「わたしのうちに留まっていなさい」

となっています。

わたしがあなたがたをすでに捕らえ、あなたがたの木陰となり、
あなたがたを覆い守ってきたのだから、あなたがたをわたしのう
ちに引き寄せて生かしているのだから、今あらためてしっかり、
「わたしのうちにいなさい。」

続けて言われます。

「わたしもあなたがたにつながっている。」

つながっている程度ではない。

「わたしも、あなたがたのうちにいる」

「このわたしがあなたがたのうちにいる」

約束です。

あなたがたがどうであろうと、わたしはあなたがたのうちにすでに宿っている。

イエスは、最初の弟子たちに対してだけではなく、わたしたちに対しても言われます。

「わたしはまことのぶどうの木」

第一に、わたしがあなたがたの木陰となるから、わたしのもとにいて、くつろぎなさい。平安を得なさい。

♪ いつくしみふかき友なるイエスは

罪、^{とが}咎、憂いを取り去りたもう

あなたがたの罪、^{とが}咎、憂いを、わたしが引き受けた。わたしがそれをあなたがたから取り去る。

第二に、わたしがぶどうの木となってあなたがたに喜びといのちを与えるから、わたしからいのちを受けなさい。

イエスの言葉がいのちです。けれどもさらに何かにつながります。聖餐式です。聖餐のぶどう酒です。

イエスはわたしたちに「平和」を呼びかけ、ぶどうの実からなるぶどう酒をご自身のいのちとして、わたしたちのために用意してくださるのです。

今は十分わからなくてもよい。はっきりとわかって喜ぶときが来る。わたしが聖霊を送って皆の心の目を開くから。

「わたしが父のもとからあなたがたに遣わそうとしている弁護者、すなわち、父のもとから出る真理の霊が来るとき、その方がわたしについて証しをなさるはずである。」ヨハネ 15:26

「あなたがたも、初めからわたしと一緒にいたのだから、証しをするのである。

」 15:27

「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。」

15:1

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。」 15:5

「わたしにつながっていなさい。わたしもあなたがたにつながっている。」 15:4

愛の呼びかけです。わたしたちを守り、生かそうとされるイエスの愛の呼びかけを、冷たい教訓のように読んではいけません。

教会がこのようなイエスの臨在を経験する場所であることを願います。脅かされた人々を主イエスが守ってくださるようお願いします。

祈ります。

主イエスさま、あなたが約束されたように、あなたがわたしたちのためにぶどうの木でいてください。あなたのもとで平安と、温かな交わりを楽しむことができるようにしてください。そうしてわたしたちもあなたの枝として、あなたの働きをなすことができますように。アーメン